

平成30年度 第1回 物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成30年9月6日（木） 14：30～17：00

場所：香美農林合同庁舎 1階 大会議室

出席：委員20名中、19名が出席（代理出席2名含む）

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

1) 第3期物部川地域アクションプランの進捗状況等について

2) 追加・修正等の案件について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事(1)(2)(3)について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特に意見なし。

(2) 地域アクションプランについて

(新規 地域と連携した高知県産ワインのブランド化の推進)

(山本委員)

事業主体に対して、どのような支援を行っているのか。

(前田地域産業振興監)

県外の先進事例への視察研修や醸造施設の建設に対し、県産業振興推進総合支援事業による支援を予定している。

(北岡委員代理)

ワインやクラフトビールの醸造施設において、体験学習を含めた観光地づくりを目指しているので、協力をお願いしたい。

(3) 産業成長戦略について

(1 移住促進の取り組みについて)

(近藤委員)

就農による移住を希望する方は、土地や機械など何もない状況でスタートせざるを得ず、土地や機械を最初から持っている地元の方とスタートラインが違う。もう少し手厚い支援策を検討できないか。

(小松中央東農業振興センター所長)

農地中間管理機構を通じて、移住者に園地を引き継いでいく取り組みが始まったところ。研

修についても担い手育成センターでの基礎研修や指導農業士による現場研修等、充実を図っている。

(高橋委員)

就農による移住希望者に対して、空き家バンクのように就農可能な農地を検索できる仕組みづくりを検討できないか。

(小松中央東農業振興センター所長)

各市町村のホームページに農地バンクがあるが、条件のいい農地はなかなか出てこない。

(清藤座長)

移住分野において、農業に関する取り組みは何かないか。

(細川移住促進課チーフ)

農業振興部が産地提案書という形で、産地が求めている就農者や得られる収入などを積極的に提案し、移住後のミスマッチを減らし、移住の促進につなげていく取り組みを行っている。

(丸岡委員)

子どもを連れて移住してくる人にとっては、ビジネスだけでなく教育や環境についての情報発信が大事である。特に教育面については市町村任せにせず、県が主体的に取り組むべきと考える。

(細川移住促進課チーフ)

移住者の定着状況について、全市町村アンケートで把握している。子育て環境や教育レベルなど教育面については、県の教育行政全体に関わるものであるため、県教育委員会とも情報共有しながら対応していく。

(2 自然・体験型観光キャンペーンについて)

(丸岡委員)

7月豪雨などで風評被害を受け、観光客が減っている。いち早く「高知は被害を受けていない、大丈夫だ」ということを打ち出す必要があると思うが、具体的な対応策は何か考えているか。

(門田地域観光課課長補佐)

ホームページやソーシャルメディア等の活用をはじめ、被災してないことをきっちり伝えられる仕組みづくりを検討する。

(山本委員)

三宝山は物部川地域全体の中心的な存在であり、再開発については香南市だけが担うのではなく、物部川地域の三市全体で担う仕組みづくりが必要ではないか。

(前田地域産業振興監)

三宝山は物部川地域のランドマークであり、他の観光地とともに磨き上げを行い、個々の点ではなく、線で結んだ1つの観光商品として提供できるように物部川DMO協議会とも連携して取り組んでいく。

(以上)